

青年部教学試験1級

問題と解答例

問一 次の文章は「観心本尊抄」(第1章〜第10章)の趣旨を述べたものです。後ろの1〜6の問いに答えなさい。

本抄では、最初に「摩訶止観」の文を掲げて、「一念三千」が示されます。そして、この一念三千こそ、天台の究極の教えであることが示されたあと、百界千如と一念三千の差別(違い)を明かされます。続いて、観心の意義を述べられ、十界互具の経文を挙げられた後、自他の生命に、六道が具すること、また四聖が具することが示されていきます。しかし、凡夫の劣心に仏界が具することは信じ難く、十界互具は、現証をもって信するべきであることが説かれています。

- 一、本抄の冒頭に挙げられた、「一念三千」を示した『摩訶止観』第5巻の一節を挙げなさい。
- 二、百界千如と一念三千との差別について、日蓮大聖人は、どのように仰せられていますか。
- 三、本抄で大聖人は「観心とは我が[]を観じて[]を見る是を観心と云うなり」と仰せです。[]に入る正しい言葉を書きなさい。
- 四、六道が具わっていることを説明した御文を挙げなさい。
- 五、四聖のうち、二乗界、また、菩薩界が具わっていることを、大聖人は、それぞれ、どのように説明していますか。
- 六、本抄で大聖人は、人界に仏界を具足している現証を三つ挙げられています。そのうち、不軽菩薩の例を挙げなさい。

問二 「観心本尊抄」(第11章〜第16章)から問いに答えなさい。

一、法華経に比べて、十界の隔絶を説く爾前の諸経こそ実語である。との主張に対して、大聖人は本抄で「但し諸経と法華との相違は経文より事起って分明なり未顕と已顕と証明と舌相と[]の成不と始成と[]と等之を顕わす」と、法華経と爾前経との間に根本的な相違があることを示されています。[]に入る正しい言葉を書きなさい。

二、次の文章を読み、後ろのイ〜ロの問いに答えなさい。

偉大な教主釈尊のような尊極な仏界が凡夫の劣心に具わるはずがない。という疑問に答えるにあたり、大聖人はまず、この正法を覚知したのは釈尊、天台、伝教の3人に限られると指摘されます。そして「未だ六波羅蜜を修行する事を得ずと雖も六波羅蜜自然に在前の経文等を挙げられた後、会通を加えられ、「受持即観心」の法門を明かされます。さらに「受持即観心」によって「已心に顕れる四聖」について法華経の経文を挙げて述べられ、「摩訶止観」の「一念三千の文を釈した妙楽大師の文を示されます。

イ、釈尊・天台・伝教の3人に対して竜樹や天親は、正法を心の中に知っていたが、外に向かつて言わなかったと述べられています。その理由を本抄の趣旨に沿って書きなさい。
ロ、「受持即観心」の法門を明かした御文を書きなさい。
ハ、「受持即観心」によって得られる境地について示した次の1〜3の御文の[]に入る正しい言葉を書きなさい。

- 1、「無上宝聚・不求自得」云云、我等が[]なり
 - 2、「妙覚の釈尊は我等が血肉なり[]は骨髓に非ずや」
 - 3、「上行・無辺行・淨行・安立行等は我等が[]なり」
- 二、傍線二について、「妙楽大師云く『当に知るべし身土一念の三千なり故に成道の時此の本理に称うて一身一念[]』等云云」と仰せです。[]に入る正しい言葉を書きなさい。

問三 「観心本尊抄」(第17章〜第31章)から問いに答えなさい。

一、本抄の後半では、末法の衆生が受持すべき「本尊」について論じられています。まず、爾前・迹門で説かれる国土と、本門の国土の違いについて述べられた後、末法出現の本尊の為体を詳しく示されます。この本尊の為体を示した御文を書きなさい。

解答例

問一

- 一、夫れ一心に十法界を具す一法界に又十法界を具すれば百法界なり一界に三十種の世間を具すれば百法界に即三千種の世間を具す、此の三千・一念の心に在り若し心無んば而已介爾も心有れば即ち三千を具す乃至所以に稱して不可思議境と為す意此に在り
- 二、百界千如は有情界に限り一念三千は情非情に亘る
- 三、(順に) 己心 十法界
- 四、(数は他面を見るに或時は喜び或時は瞋り或時は平に或時は貪り現じ或時は癡現じ或時は詭曲なり) 瞋るは地獄・貪るは餓鬼・癡は畜生・詭曲なるは修羅・喜ぶは天・平かなるは人なり(他面の色法に於ては六道共に之れ有り)

問二

- 一、(順に) 二乗 久成
 - イ、説くべき時ではなかったから
 - ロ、釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華経の五字に具す我等此の五字を受持すれば自然に彼の因果の功徳を譲り与え給う
 - ハ、
- 五、二乗界が具わっていることの説明……世間の無常は眼前に有り人界に二乗界無からんや
菩薩界が具わっていることの説明……無顧の悪人も猶妻子を慈愛す菩薩界の一分なり
- 六、所見の人に於て仏身を具する

問三

- 一、其の本尊の為体本師の娑婆の上に宝塔空に居し塔中
- 二、法界に遍し
- 三、己心の菩薩
- 二、因果の功徳
- 一、己心の声聞界

二、本抄では、末法出現の本尊こそが、釈尊一代の諸経、さらには三世諸仏の経々において最も肝要であることを「五重三段」によって論じられています。その結論として「在世の本門と末法の始は一同に□□なり但し彼は□□此れは□□なり彼は□□此れは但□□なり」と仰せられています。

イ、「五重三段」それぞれの序分・正宗分・流通分を挙げなさい。(解答用紙の表を完成させなさい)

□、傍線□の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

三、寿量品の「良医病子の譬え」について、本抄では、「今の遣使還告は□□なり是好良薬とは寿量品の肝要たる名体宗用教の□□是なり」と仰せです。□□に入る正しい言葉を書きなさい。

四、本抄では、四菩薩が末法に出現する具体的なありさまについて、折伏を現する時と摂受を行する時があると述べられています。そのうち、折伏を現することを示す御文を書きなさい。

五、次の文章を読み、後ろのイ、□の問いに答えなさい。

本抄では、末法の広宣流布を予言した法華経や天台・伝教などの言葉を挙げ、「此の釈に闡諍の時と云云、今の□□1・西海侵逼の二難を指すなり、此の時地涌千界出現して本門の釈尊を脇士と為す一閻浮提第一の□□2此の国に立つ可し」と宣言されています。

また、正法・像法時代にはなかった天変地異が起こっているのは、地涌の菩薩が出現する先兆であるとの確信をこめて、「天晴れぬれば地明かなり法華を識る者は□□3を得可きか」と仰せになります。そして本抄の結びにおいて「一念三千を識らざる者には仏・大慈悲を起し五字の内に此の珠を裹み末代幼稚の頸に懸けさしめ給う」と述べられています。

イ、御文の□□1□□3に入る正しい言葉を書きなさい。

□、傍線□の御文を、「日蓮大聖人」と「末法の衆生」と「御本尊」の言葉を用いて説明しなさい。

問四 「顕仏未来記」から問いに答えなさい。

一、本抄の冒頭で、釈尊の未来記として挙げられている法華経葉王菩薩本事品の文を書きなさい。

二、末法が広宣流布の時であることを示した天台の言葉、または末法を願う求めた伝教の言葉のいずれか一つを書きなさい。

三、本抄では、教行証の観点から、正法・像法・末法の違いを論じられ、末法には仏教によって悪道に墮ちる者が多いと仰せです。続いて、大聖人は、「此の人は守護の力を得て本門の□□1・妙法蓮華経の五字を以て閻浮提に広宣流布せしめんか」と末法の弘教の方軌を明かされます。そして、釈尊が過去世で不軽菩薩であった時の実践と比較して「彼の不軽菩薩は初随喜の人・日蓮は名字の□□2なり」と示されています。

イ、末法は仏教によって悪道に墮ちる者が多い理由について、本抄では大聖人はどのように述べられていますか。

□、□□1、□□2に入る正しい言葉を書きなさい。

四、大聖人御自身が経文に照らして末法の法華経の行者であると仰せられたことについて、「汝は大慢の法師にして大天に過ぎ四禪比丘にも超えたり如何」と非難されています。この非難に対して、本抄で大聖人はどのように破折されていますか。

五、本抄で「汝が未来記如何」との問いに対し、大聖人が御自身の未来記を述べた御文を書きなさい。

六、本抄では、「願くは我を損ずる国主等をば□□、我を扶くる弟子等をば釈尊に之を申さん、我を生める父母等には未だ死せざる已前に此の大善を進めん」と仰せです。□□に入る正しい言葉を書きなさい。

七、「但し今夢の如く宝塔品の心を得たり」と述べられた大聖人は、本抄の末尾で御自身のことをどのように名づけられていますか。

問五 「日顕宗を破す」から問いに答えなさい。

一、日顕宗の法主信仰を日興上人の「遺誠置文」を用いて破折しなさい。

二、日顕宗の誤った血脈観を御書の御文を用いて破折しなさい。

三、創価学会は、大聖人の仰せの通りに、極悪・日顕宗を破折してきました。なぜ悪との戦いが必要なのか。御文を用いて簡潔に記しなさい。

の妙法蓮華経の左右に釈迦牟尼仏・多宝仏・釈尊の脇士上行等の四菩薩・文殊弥勒等は四菩薩の眷属として末座に居し迹化他方の大小の諸菩薩は万民の大地に処して雲閣月卿を見るが如く十方の諸仏は大地の上に処し給う迹仏迹土を表する故なり

イ、(省略) ※「大白蓮華7月臨時増刊号」90頁掲載の表を参照のこと

□、(順に) 純円 脱種 一品二平 題目の五字

三、(順に) 地涌 南無妙法蓮華経

四、折伏を現する時は賢王と成って愚王を誠責し

五、イ、

1、自界叛逆

2、本尊

3、世法

□、御本仏・日蓮大聖人が大慈悲を起こして、南無妙法蓮華経の御本尊を顕示され、末法の衆生である私たちに信受させてくださる

問四

一、我が滅度の後・後の五百歳の中に閻浮提に広宣流布して断絶せしむること無けん

二、(次のいずれか)

後の五百歳遠く妙道に沾

おわん

正像稍過ぎ已って末法太

だ近きに有り

三、

イ、執心弥強盛にして小を

以て大を打ち権を以て実を

破り国土に大体謗法の者充

満するなり

□、

1、本尊

2、凡夫

四、我が言は大慢に似たれども

仏記を扶け如来の実語を

顕さんが為なり

五、仏記に順じて之を勘うる

に既に後五百歳の始に相当

れり仏法必ず東土の日本より

出づべきなり

六、最初に之を導かん

七、三國四師

問五 (省略)